

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

坂出市

3 地域再生計画の区域

坂出市の全域

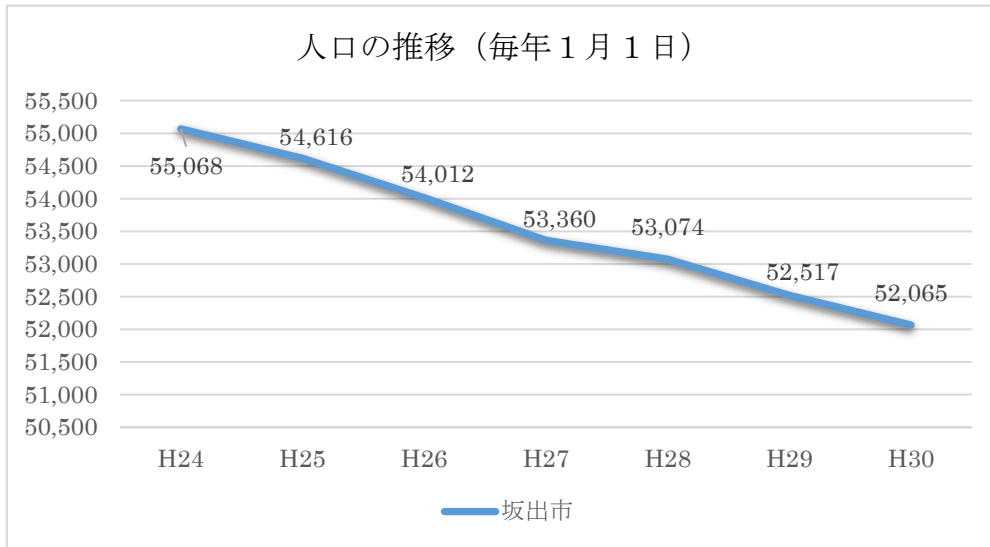
4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

坂出市は、江戸時代より塩の積み出し港として栄え、昭和初期には岸壁も整備され近代的な商港として繁栄し、戦後の高度経済成長時代には、塩田跡地を活用した港湾開発や番の州地区の埋め立て等により、全国有数の港湾工業都市へと変貌を遂げてきた。その後、1988年に世界最大級の道路鉄道併用橋である瀬戸大橋が開通し、四国側の拠点、瀬戸内における交通・物流の要衝として、その存在価値を高めてきた。また、瀬戸大橋の四国側の拠点として、県内屈指の交通利便性の高さを有し、中心市街地には、様々な公共施設のほか、多くの子育て・文教施設が集積するなど、より良く、かつ安心して暮らすための要件を備えたまちでもある。

本市の人口は減少傾向が続いており、若年人口の減少や高齢化が進み、また今後の出生数の劇的な増加は見込めないことから、このまま人口減少が続くと、地域経済に大きな影響をもたらすことが懸念されている。本格的な人口減少社会の到来を迎える中、地域活力の向上を実現するには、定住人口の増加に向けた施策にとどまらず、更なる交流人口の拡大に向けた施策展開が必要となっている。

交流人口の拡大に向けた取組も行う中で、観光入込客数は年々少しずつ増加している状況となっている。交流人口の拡大に向けた取組の一つとして、廃校になった小学校を活用した、宿泊研修の出来る野外活動施設「交流の里 おうごし」を平成29年4月に開設した。



4-2 地域の課題

地域住民のまちづくり拠点施設のみならず、市外からの利用や宿泊により交流人口に寄与する施設として開設した王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の現状としては、開設した平成29年4月から12月までの利用者は3,366人、そのうち市外からの利用者は950人となっている。市外からの利用については、県内の官公庁や企業による職員研修、また学生等の野外学習や合宿での利用が多いが、市外からの利用者は全体の利用者の3割程度と利用が伸びていない状況である。さらに宿泊者については全体の利用者の1割程度とさらに少ない利用状況となっている。

要因としては、空調設備が備わっていないことに関して利用者から多くの声が寄せられており、特に宿泊室に空調設備がないことは、宿泊者が伸び悩んでいる大きな要因と考えられる。

空調設備が備わっていないことによる設備の不十分さによって、利用機会を損なっているケースも多く見受けられることから、空調設備を備えること、そして施設の設備を充実させることが大きな課題となっている。

また、周辺地域を含めたイベント等の各種取組を行っていくことで、交流人口の増加に向けた取組を行っていくことも求められている。

4-3 目標

本事業を実施し施設の設備を充実させたり、周辺地域を含めた各種イベント等を開催することで、利用者や宿泊者の増加を図り、交流人口の拡大に繋げていくことを目標とする。また、今後可能な限り早い時期に、当該施設

の管理運営を地元住民に全面委託することを視野に入れており、そのことにより地元での雇用創出や地域経済の活性化を図り、人口減少の歯止めにも繋げていく。

【数値目標】

事業	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備事業		年月
KPI	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の市外からの利用者数	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の利用料収入	
申請時	950 人	654,685 円	H29.12
初年度	1,100 人	850,000 円	H31.3
2年目	1,200 人	900,000 円	H32.3
3年目	1,300 人	950,000 円	H33.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」は、主に青少年やその他社会教育団体の研修および野外活動の場と王越町の自然豊かな里海・里山での体験を提供するとともに、市民共働によるにぎわいの創出や地域交流の促進を図るための施設である。設備整備を通じて、市内に限らず、市外・県外からの自然体験学習だけでなく、スポーツ交流合宿などを誘致することにより利用者が増加することで、交流人口の増加や王越町の活性化に繋がり、地域の中核施設としてのにぎわいが創出されるとともに、将来的に施設の管理運営を担っていく地元住民の雇用にも繋げていく。

また、「交流の里 おうごし」の施設整備だけでなく、施設周辺にあるとんぼランドを活用した各種イベントを実施することで、新たな魅力を発信していき、利用者の増加に向けた取組みを行っていく。

これらの取組を実施し、SNS を積極的に活用した対外的な情報発信を行うとともに、現状の主な利用者である青少年や社会教育的団体に加え、近隣で開催されるトライアスロン大会やマラソン大会といった各種スポーツイベントの合宿地としての誘致を推進するなど、多方面からの利用者の取り込みを行うことで、王越地区ひいては坂出市のにぎわい創出の拠点となることを目指す。

更には、将来的に施設の管理運営を地元住民へ移管していくことも視野に入れており、地元住民が長期に渡って活躍できるような拠点づくりも進めていく。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備事業
(王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備事業、とんぼランド整備事業)

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

季節を問わず、年間を通じて王越町の豊かな自然や環境を利用者が体験できる王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」は、王越地区の魅力を発信する上で非常に重要な役割を果たしている。

しかしながら、本施設においては空調設備が十分に備わっていないため、利用時期によって利便性や利用における満足度の差が著しく、特に夏場の利用に際しては、多くの利用者から改善要望が挙がっている。また、設備の不十分さが原因で、市内外の団体の利用に結びつかず利用機会を損なっているケースが多いのが現状である。

そこで、このたび実際の利用者から多くの要望が寄せられている空調設備を備えることで、市内外からの利用者の増加に繋げる。

また、「交流の里 おうごし」の施設整備を行うだけでなく、施設周辺にあるとんぼランドを活用するため、とんぼの生態にあった水路整備を行い各種イベントを実施することで、交流人口の増加に繋げることを目的とする。

(事業の内容)

利用頻度が高い一方で空調設備が備わっていない宿泊室(3部屋)にそれぞれエアコンを設置し、利用環境を改善することで、利用者の満足度向上を図る。また、施設周辺にあるとんぼランドを活用するため、とんぼの生態にあった水路整備を行い、自然観察会など各種イベントを開催するなど、交流人口の増加に向けた取組みも行う。さらに、SNSを積極的に活

用した対外的な情報発信を行うとともに、各種スポーツイベントの合宿地としての誘致を推進するなど、多方面からの利用者の取り込みを行うことで、これまで利用に結びつかなかった団体や新規利用者の獲得に繋げる。

→各年度の事業の内容

王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備事業

初年度) 王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の宿泊室にエアコンを3台設置する。

とんぼランド整備事業

初年度) 王越とんぼランドの水路をとんぼの生態にあうように整備を行い、自然観察会や自然環境学習等を実施する。実施については、市からの補助金等により、王越とんぼプロジェクト実行委員会で実施する。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、交流人口の拡大に向けた施策のほか、既存公共施設の利活用を掲げており、観光入込客数に加え、旧王越小学校を活用して新規（平成29年度）に開設した王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の利用者数をKPIに掲げている。

廃校を活用し、主に青少年を対象とする宿泊型野外活動施設である「交流の里 おうごし」は、まさに総合戦略に合致する施設であり、この計画は、当該施設の利用者数の増加、更なる利活用促進に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」設備整備事業		年月
KPI	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の市外からの利用者数	王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の利用料収入	
申請時	950 人	654,685 円	H29.12
初年度	1,100 人	850,000 円	H31.3

(6) 事業費 (単位：千円)

王越宿泊型野外活動施設 「交流の里 おうごし」 設備整備事業	年度	H30	計
	事業費計	6,500	6,500
区分	工事請負費	6,500	6,500

とんぼランド整備事業	年度	H30	計
	事業費計	300	300
	委託料	100	100
	負担金補助及 び交付金	200	200

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	計
株式会社 石垣	1,000	1,000
計	1,000	1,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

本市の坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 (香川大学大学院教授、坂出港振興協会副会長、四国新聞社編集局次長、百十四銀行坂出支店長、NPO法人わははネット理事長、坂出地方労働組合連盟会長、香川県PTA連絡協議会事務局長) による検証を行い、必要に応じて事業の見直し等を行う。

(評価の時期・内容)

毎年度8月頃に外部有識者 (坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員) による効果検証を行い、必要に応じて事業の見直し等を行う。

(公表の方法)

目標の達成状況等については、検証後速やかに坂出市公式WEBサイト上で公表する。

(9) 事業期間

平成30年4月～平成31年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 季節に応じたイベントの開催

事業概要：トンボ学校（小学生を対象とした体験学習）、ピザ窯を使った体験教室等

実施主体：王越町共に生きるまちづくり推進協議会

事業期間：平成30年度～平成32年度

(2) かがわ里海大学

事業概要：里海プロガイド養成講座等

実施主体：かがわ里海大学協議会

事業期間：平成30年度～平成32年度

(3) 企業向け里海づくりセミナー

事業概要：企業のCSR活動や環境活動担当者向けのセミナー

実施主体：香川県環境森林部環境管理課

事業期間：平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

本市の坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員（香川大学大学院教授、坂出港振興協会副会長、四国新聞社編集局次長、百十四銀行坂出支店長、NPO法人わははネット理事長、坂出地方労働組合連盟会長、香川県PTA連絡協議会事務局長）による検証を行い、必要に応じて事業の見直し等を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度8月頃に外部有識者（坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員）による効果検証を行い、必要に応じて事業の見直し等を行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況等については、検証後速やかに坂出市公式WEBサイト上で公表する。